

知床の木

ミスラナ(水樹)



ミスラナの如く、材に多量の水分を含んでいることから呼ばれています。ブナ科のコナラ属で、北海道を代表的する樹木のひとつです。高さ30m程度、太さ1m以上になる落葉広葉樹で、用途としては、家具材、建築材、椎茸の原木などに用いられています。花は雄花と雌花が同じ樹になる雌雄同種で、5～6月頃に開花・受粉し、果実はドングリとして親しまれており、古代人の食料として、また野生動物たちにとっても厳しい冬を乗り切るための貴重な食料源でもあります。

欧米ではキング・オブ・フォレスト(森の王様)と呼ばれるほど大切な木です。知床森林センターでも、ミスラナ結実堅果の豊凶調査を10年間行なっており、一般的に堅果の豊作周期は5～6年に一度と言われていますが、当調査区(知床)においてもほぼ同じ傾向が見られます。

平成11年度イベント計画

イベント名	月日	場所・内容	募集人員
第26回 森とのふれあい(体験林業)	5月16日(日)	知床国有林と知床森林センター 森の手助け・植樹と木炭焼き	23名
第47回 森林レクリエーション・in知床	6月5日(土)	知床連音別岳山麓 新緑の森で森林浴と自然観察	23名
第48回 森林レクリエーション・in知床	6月19日(土)	知床自然観察教育林 初夏の森で森林浴と自然観察	23名
第27回 森とのふれあい(体験林業)	7月1日(木)	知床国有林と知床森林センター 森の手助け・除伐と木炭焼き	23名
第49回 森林レクリエーション・in知床	7月31日(土)	羅臼湖 植物観察と湖沼巡り	45名
第50回 森林レクリエーション・in知床	8月19日(木)	知床硫黄山新噴火口 登山と植物観察	45名
第51回 森林レクリエーション・in知床	10月13日(木)	知床自然観察教育林 紅葉の森で森林浴と自然観察	23名
第28回 森とのふれあい	10月17日(日)	斜里町周辺国有林 自然観察会	20名
第29回 森とのふれあい	11月7日(日)	センターセミナー室 講演等(草木染め)	35名
第30回 森とのふれあい	1月8日(土)	センターセミナー室 親子木工体験	35名
第31回 森とのふれあい	2月26日(土)	斜里町周辺国有林 歩くスキーと自然観察会	30名
第52回 森林レクリエーション・in知床	3月9日(木)	知床連音別岳山麓 冬の森で歩くスキーと動物観察	23名

個々のイベントは、報道機関及び広報並びにホームページ等でお知らせ致します
 問い合わせ 知床森林センター 電話 01522-3-3009。
 ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>

知床の森から

平成11年4月 第60号



北海道森林管理局北見分局 〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
 知床森林センター Tel 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
 ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



ナニワズ(ジノコケ科)
 ナニワズは葉や枝に強い毒がありアイヌ民族はこの木をケトニと呼び毒矢を作るのに利用した雪どけと同時に咲く



知床は今



冬の使者「流氷」、遠くアムール川から流れ出た淡水が凍り、ここ知床半島には1月の中旬頃には流れ着く。流氷はやがて海一面に広がり、見渡す限りの流氷原となる。

この流氷の下には豊富なプランクトンが生息しこのプランクトンによって魚類も豊富となり、これらを追うようにワシ類や海獣類も多数渡来し、流氷の海は生物の豊富な海となる。

こうした流氷も、4月になると私たちの視界から消え、僅かに取り残された流氷の一部がその存在を誇示しているようだ。



環境庁提供 シマフクロウ

流氷が去ったオホーツク海は、白一色の銀世界から紺碧の青を主体とした色へと変わり、ここ知床も冬の観光から、春の観光へと衣代わりを始める。

1月下旬から4月上旬にかけて網走港を基地として活躍している流氷観光船オーロラ号も、春の訪れとともに斜里町ウトロ港を基地とした



知床半島を巡る観光船へと変わる。
 まもなく、知床にも遅い春が告げられると、今年もまた、日本全国から沢山の観光客が神秘的な知床を求めて集まってくる季節となる。





早春の知床ウォッチング

スキーをはいて自然を観察

第46回「森林レクリエーション・in知床歩くスキー早春の知床ウォッチング」が、3月12日（金）遠音別山麓で実施しました。参加者は北見市をはじめ近隣市町村からの19名です。

今回のイベントは、早春の知床で自然のたっぶり残る森の中に入り、知床の森の息吹きや早春の気配を感じながら、自然を楽しんでいただくことです。

現地に向かうバスの中から国道沿いに餌を求めて群がっている鹿、オホーツク海の沖合に浮かぶ流氷などを眺めながら一路オシンコシンの滝の上にある台地に向いました。

コースは遠音別岳山麓にある旧国道を中心に歩き、勾配は緩やかで、天然林を主体とした林間コースとなっています。コース自体が北面にあり雪質も一定しており歩くスキーに



は最適です。コースを進みながら、トドマツの大木、冬でも静かな水面を覗かせている池、立木に刻まれたヒグマの爪痕、キツツキ・クマゲラが樹木にあけた孔、エゾマツ・トドマツの林木遺伝資源保存林、今ではめつたに見られないキハダ・オヒョウニレの大木、北国の厳しい寒さが伝わって来る樹木の凍裂などを観察しました。

昼食時には、オオワシが優雅に舞う姿やワタリガラスの鳴き声、シジュウカラのさえずりなど野鳥たちが楽しませてくれました。

イベントも終盤に向かい眺望の利く尾根に出ると、オホーツク海の流氷が展望され、参加者から歓声が上がりました。

深い森と多い雪の中に身を置き、大木や自然の景勝、芽吹き前の樹木や、自然のたっづまいを観察しながら、好天に恵まれた充実の一日を過ごしました。



第25回森とのふれあい

第25回森とのふれあい『冬の森・歩くスキー自然観察会』2月27日（土）に実施しました。斜里市街近郊にある通称『発見の森』での歩くスキー、今回は網走から親子の参加もあり、前日からくずついた天気もあがり参加者一同さっそうと？森の中へ入りました。

森林インストラクター「皆さん、これがカシワの木ですよ」子供「カシワってかしわそばのかしわかなー？」。おかあさん「カシワ餅の葉はこの木の葉でできているのよ」。楽しい親子の会話が森の中で微笑ましく響きわたるとともに心地よい汗をかき自然のたっづまいを感じながら冬の森林を楽しみました。

イベント10年のあゆみ

知床森林センターでは、知床国有林の豊かな自然環境をフィールドに各種イベントを実施し、森林・林業に関する普及・啓蒙活動を行うとともに、平成9年度からは、国民参加の森づくりを目指した体験林業を実施してきている。

これらイベント等参加者の動態を把握し今回の事務参考とするため、これまで実施してきたイベント参加者等の10年以上にわたるデータを取りまとめた。

図-1 年代別・性別参加者数

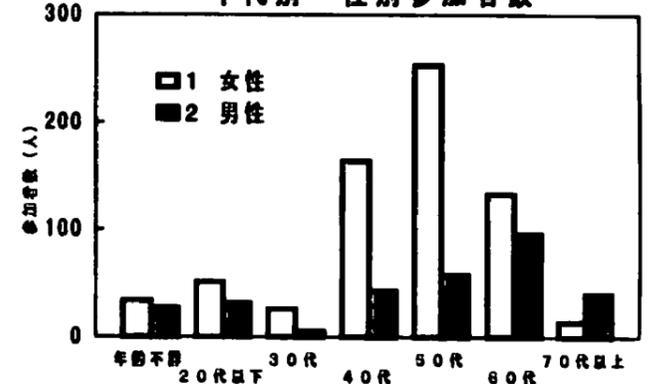
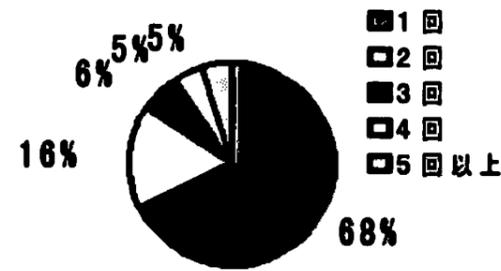


図-2 参加回数別の割合



1 年代別・性別参加者数

図-1は、今までのイベント参加者を年代別・男女別に表しており、参加者総数は978名となり、延べ参加者数は1694名となっている。

参加者を年代別でみると、50代女性が約250名と最も多く、参加者全体の約4分の1を占め、次に40代女性、60代女性と続いている。

この40代から60代の女性は参加者全体の約6割を占めており、一般的には「子育てから解放され、余暇を楽しむ時間が増えた」ことなどが、この年代の女性に参加が多いものと考えられる。

男性の参加者数で最も多い年代は、60代となっており「退職後、余暇を楽しむ時間が増えた」ことなどが、この年代に参加が多いものと考えられます。

2 回数別の参加者割合

図-2は、イベント参加者の参加回数別の割合を表したものである。参加回数1回のみの参加者は全体の68%、2回参加は16%、3回参加6%、4回5%、5回以上5%となっている。

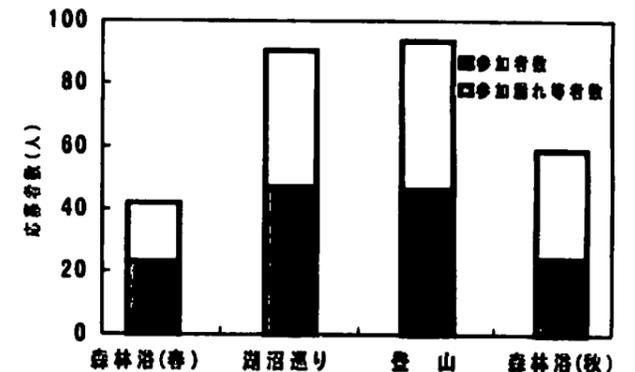
殆どの参加者は2回以下の参加回数となっているが、最も多い参加回数は17回となっている。

3 イベント内容別の応募者数

図-3は、平成9・10年度に実施した主なイベント内容別の平均応募者数を表したものである。

イベント内容別にみる応募状況は、登山が94名、次に湖沼巡りが91名、これらについては、募集人員に対し約2倍の応募がある人気の高いイベントとなっている。

図-3 イベント内容別の応募者数 (平成9・10年度平均)



詳細については今後発行予定である「平成10年度業務研究発表集録」（北海道森林管理局 北見分局）に掲載予定です。